

平成 28 年度事業報告(概要)

1. 事業計画

(1) 内容

学生の自主性、創造性を刺激することにより、勉学意欲の向上を図るため、学生自主企画による研究プロジェクトを公募し、選考されたものに対して、研究資金を助成する。その研究成果の発表会を開催し、グループの研究・調査結果を学内で共有する。

(2) 申請者

愛知県立大学生、同大学院生で構成された研究グループ(グループ内の学生の所属学部・学年は不問。できれば学部や学年が混在することが望ましい。)は、代表者を含む正規構成員(3 名～10 名)と協力者(0 名～人数制限なし)とする。同一人が、正規構成員として複数グループに属することはできない。本学専任教員 1 名の推薦が必要。推薦教員はその研究グループのアドバイザーに就任する。

(3) 研究テーマ

1. 自由テーマ。ただし、授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同一の研究、および、過去に採択された研究課題と同一のものは不可。

2. 名古屋市交通局連携テーマ

「学生力を活かした市バス・地下鉄魅力創造プロジェクト」との連携テーマ

(4) 助成金額

最大 300 千円/件

(5) 助成件数

最大 10 件

(6) 採択方法

第一次審査 提出書類による。

第二次審査 第一次合格グループに対して公開ヒアリングを行い、選考委員会が決定。

(7) 研究期間

2016 年 6 月 1 日(水)から 2017 年 1 月 18 日(水)まで

(8) 研究成果公開

研究終了後、研究発表会を開催する。その後、レポートを製本し、学内外に配布する。

2. スケジュール

4 月中旬	公募説明会実施 (4/18, 4/20, 4/22) 53 名参加
4 月 16 日	募集要項公開
5 月 18 日	申込締切 申込件数 22 件(自由テーマ 19、名古屋市交通局テーマ 3)
5 月 19 日	第一次審査(自由テーマ) 22 件を選考
5 月 20 日	第一次審査結果発表 通過 17 件(自由テーマ 14、名古屋市交通局テーマ 3)

5 月 25 日	公開ヒアリング(自由テーマ) 13:00～15:30 (H005) 発表 7 分・質疑応答 2 分・交代 1 分 審査員：副学長、学部長、センター長 各審査員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の 5 基準を各 4 点で採点、合計 20 点満点で採点 <参加者 75 名>
5 月 27 日	審査結果をもとに、教育支援センター運営会議で原案を作った上で最終選考を行い、9 件のグループを採択。
5 月 31 日	名古屋市交通局連携テーマ 3 グループのヒアリング 審査：選考委員および名古屋市交通局担当者
6 月 1 日	研究機関開始
6 月 8 日	採択グループに対する研究助成金取扱説明会 (学務課)
6 月 22 日	学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座開催 13:00～14:30 「社会調査の実践的スキル」松宮 朝准教授(社会福祉学科) <参加者 54 名>
10 月 12 日	中間発表会 13:00～15:20 (H005) 発表 8 分・質疑応答 3 分・交代 1 分 <参加者 53 名>
1 月 18 日	研究期間終了
1 月 18 日	研究発表会 13:00～15:50 (H005)、発表 12 分・質疑応答・2 分・交代 1 分 参加者 75 名 終了後、交流会・表彰式 ～17:00
1 月 20 日	実施報告書提出

3. 評価と課題

- ☐ 本事業も 10 年目となり、本事業が学生および教員に浸透した結果、多数の応募件数があった。また、募集開始から最後の研究発表会に到るまで、順調に進めることができた。
- ☐ 応募要領の「審査基準」は、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」であること、②実行可能性、③プレゼンテーションとし、この基準に従い、第一次審査、第二次審査(公開ヒアリング)を実施した。
- ☐ 助成金額については、自由テーマを 1 グループ上限 30 万円×9 グループ、名古屋市交通局連携テーマを 10 万円×3 グループとすることとした。

□過去3年間の応募件数、採択件数の推移は以下の通りである。

年度	応募件数	一次選考合格件数	採択件数
平成26年度	13件	13件	10件
平成27年度	13件	13件	10件
平成28年度	22件(19+3)	17件(14+3)	12件(9+3)

□自由テーマの第一次選考は書類選考とし、応募19件中14件を合格とした。審査はセンター運営会議構成員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②実行可能性の2項目について、条件を満足している場合は3点以上(5点満点)で採点し、評価の平均が6点以上のテーマを選出した。

□自由テーマの第二次選考は公開ヒアリングとし、審査は募集要項に明託の3基準を基に①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の5基準を各4点で採点、合計20点満点で審査員(副学長、学部長、センター長)が採点した。採点結果に基づき、9件の採択を決定した。

□名古屋市交通局テーマについては3件の申請があり、第一次審査(書類選考)および第二次審査(ヒアリング)の結果により、すべてのグループを採択した。なお、第二次審査には名古屋市交通局担当者に参加いただき、講評をいただいた。

□学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座として採択されたグループの構成員を対象に、松宮朝准教授(社会福祉学科)の「社会調査の実践的スキル」を開催した。

□中間発表会は、参加者75名であった。参加者から活発に質問が寄せられた。また、従来どおりコメント用紙を用意し、会場の参加者に各発表グループ宛にコメントを書いてもらい、後日各グループに渡した。

□研究発表会は75名の参加があり、いずれのグループもしっかり準備されたプレゼンテーションで、質疑も活発に行われた。

□採点は「研究内容」、「プレゼンテーション」について、それぞれ10点、5点の合計15点満点とした。採点資格は教職員は5グループ以上の発表を聞いた場合、学生は全グループを聞いた場合とした。なお、副学長、各学部長、各センター長の配点は2倍(30点満点)で計算し、得票数により金賞と銀賞を選出した。

賞	代表者	研究テーマ
金賞	山田 早姫 (情報科学研究科)	名古屋市交通局におけるロボットコミュニケーションを用いたユニバーサルアクセスの実現
銀賞	ハシム アナスタシヤ ウランダル (国際関係学科)	県大における聴覚障害学生への情報保障 ーノートテイク支援の課題と解決策の提言ー

□研究発表会終了後、短い時間ではあるが、お茶とお菓子を用意して懇親会を行った(後援会からの支援を得た)。その間に金賞、銀賞を決定して発表を行い、副学長から賞状および副賞の図書カード(金賞2万円・銀賞1万円)が授与された。

4. 終わりに

本年度の学生自主企画研究には、自由テーマに 19 件、名古屋市交通局との連携テーマに 3 件、計 22 件の応募があった。前年度までの平均応募件数は 14 件であり、本年度の応募件数がいかに多いかがわかる。これは、本事業がより多くの学生に浸透した結果であり、また、新入生へのチラシ配付など、学生への広報活動に注力した結果であろう。

今年度は、上記のように、応募件数が多数であったため、5 月の第一次審査で計 17 件(自由テーマ 14 件、名古屋市交通局テーマ 3 件)を選抜した。さらに第二次審査(公開ヒアリング)で、本事業の趣旨に沿い、かつ成果が期待される 9 件(自由テーマ)が採択された。名古屋市交通局テーマに関しては、3 件が採択されたが、その際、名古屋市交通局担当者 3 名の方々にもヒアリングに加わっていただいた。

10 月の中間発表会では、教員からの質問やアドバイスに加え、参加した学生による活発な質疑応答が行われた。これは、自身の研究だけでなく、他のグループの研究にも高い関心を持ち、切磋琢磨しようという姿勢の現れであると言えよう。また、名古屋市交通局担当者の方にも出席いただき、当該テーマの 3 グループに有益なアドバイスをいただいた。

1 月には、名古屋市交通局テーマのプレゼンテーションを行い、最も高い評価を得た 1 グループが、研究発表会に進んだ。この研究発表会では、各グループが取り組んできた研究成果が発表された。どのグループも、中間発表から着実に研究を進め、各段充実した内容であった。本年度の学生自主企画研究もレベルが高く、学生諸君の自主的な研究への熱意と課題解決に向けた努力の結晶であると評価できよう。また最近では、本事業が、学生と地域が共に協働するきっかけとなる枠組みに成長していることは特筆すべきことである。さらに本年度は、学部 1 年生のみで構成されたグループが 2 件採択されており、入学後間もない学生の高い意欲が感じられた年でもあった。

本事業を進めるにあたり、多くの方々のご支援、ご協力をいただきました。発表会において、有益なアドバイスをしていただいた学長、副学長、学部長、センター長をはじめとする教員の皆様、スキルアップ講座を担当していただいた松宮朝先生、発表会の司会を担当していただいた池田周副センター長に感謝します。また、本事業の実施には、多くの教職員の方々のご協力が不可欠です。とりわけ、事業全般を支えてくださった木下圭一郎学務部長代理、様々な業務に携わってくださった杉浦秀一主任、田島ほな実主事、高橋典子さんをはじめとする学務課の皆さんに深く感謝します。また、学生グループの研究実施にあたり、有益なご助言をしていただいた先生方のサポートがなければ、本事業の継続は不可能です。そして何よりも、自発的に本事業に応募し、学内外で様々な視点から自主的な研究に取り組んだ学生の皆さんのすばらしい成果に惜しみない賛辞をおくります。

教育支援センター長 人見明宏